病院ニュース

しろうさぎ

島根大学
SHIMANE UNIVERSITY
2012.10.1
第30号

写真「外来1階エスカレータ」

今年度の病院運営について（中間報告）

- 緩和ケア病棟開設１年を経過して
- 産科婦人科外来が移転しました
- リハビリテーション部の本移転が完了しました
- クリニカルスキルアップセンターが移転しました

- 目 次 -

今年度の病院運営について（中間報告） 1P
緩和ケア病棟開設1年を経過して 1P
産科婦人科外来が移転しました 2P
リハビリテーション部の本移転が完了しました 3P
クリニカルアップセンターが移転しました 3P～4P
Aiセンター（実績・解析）について 4P～5P
iPad版認知機能検査CADiの開発 5P
外来の第3ステージ移転について 6P～8P
A病棟Ⅰ期の移転について 9P

就任挨拶 10P～11P
DNA分解酵素(DNaseⅠ)を用いた迅速簡便な超急性期心筋梗塞診断法の開発 11P
ICタグを活用した医療機器運用管理システムで新聞取材 12P
駐日エチオピア大使が医学部を訪問 13P
山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム4大学合同FDを出雲で開催 14P
山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム4大学合同FDを出雲で開催　ー申請大学コーディネーターとしての感想 15P
成長期の運動器検診と教育啓発活動について 16P
日本政府が主催する東南海地震を想定した広域医療搬送金連に参加 16P～17P

社会福祉士実習生を迎えて 17P
がん薬物療法認定薬剤師研修生の受け入れについて 18P
認定理学療法士、忍耐作業療法士が誕生しました 18P～19P
認定医療社会福祉士取得 19P
笑い療法士について 19P～20P
看護部インターシップを実施しました 20P
ナース輝いて！　仕事も子育ても頑張っていま～す 21P
ナース輝いて！　感染リンクナースとして活動しています 21P

三木拓也さんの支援について 22P
遠隔地の患者さんに宿泊施設を提供しています 22P
中学生地域医療現場体験を実施しました 23P
高校生手術部体験学習を実施しました 24P
「夢実現進学チャレンジセミナー」医学実習を実施しました 25P
「継続は力なり」第4回納涼祭 26P
ボランティア活動について 27P
病院運営委員会の報告 27P
研修会・講演会・学会等のお知らせ 28P

理念
地域医療と先進医療が調和する大学病院

目標　患者さんの視点に立った医療の提供
安全・安心で満足度の高い医療の実践
人間性豊かな思いやりのある医療人の育成
地域医療人とのネットワークを重視した医療の展開
地域社会に還元できる臨床研究の推進

今年度の病院運営について（中間報告）

病院長　井川　幹夫

病院長就任後6か月経過しましたので、これまでの病院運営と今年度後期の方向性について簡潔に述べさせていただきます。診療費用請求額は4月が昨年度末の病棟移転の影響で目標額を下回りましたが、在院日数の短縮、病床稼働率の上昇、手術件数の増加等、職員の皆様のご協力により徐々に月ごとの診療費用請求額が高くなり、特に7月は過去最高額を記録しています。A病棟の改修も順調に進み、予定より早く10月初旬に改修完了フロアを稼働させることができますので、病床運用も少し楽になると思います。外来診療棟の改修では、本移転した各診療科、外来化学療法室、血液浄化治療部、リハビリテーション部なども明るく機能的になっています。またクリニカルスキルアップセンターは、高機能のシミュレータを備え、卒前教育はもちろん、学内のみならず島根県内の医療従事者の研修に幅広く活用されることが期待されます。

医療提供体制整備で大きな事項は、10月1日から救命救急センターが稼働を開始したことで、ICUの増床、HCUの新設、MCU（重症管理病棟）の設置により重症患者の受け入れ体制が整備されたことと、これまでの救急医療の実績が評価されて指定されました。今後、24時間体制で重症救急患者を必ず受け入れ、島根県立中央病院と役割分担を行いながら県全域を対象とした救急医療を推進することになります。全診療科のバックアップ体制を整え、病院全体で救命救急センターを支援する必要がありますので、職員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。他には、ロボット手術支援システム「ダヴィンチ」を今月中旬に導入・設置し、11月には泌尿器科の椎名教授、安本講師が前立腺がんに対する根治的手術を実施します。来年度にはロボット支援手術の実施を外科系診療科に拡大する予定です。

来年度以降の病院フル稼働に合わせて、医療機器整備を計画的に実施するために各診療科、各部門を対象としたヒアリングを実施しています。これから臨床指標を用いた医療の質評価を行うとともに病院運営に関するデータを院内で共有し、職員の皆様の意見を反映した病院運営を行いますのでよろしくお願いいたします。

ロボット手術支援システム「ダヴィンチ」

緩和ケア病棟開設1年を経過して

緩和ケアセンター　橋本　龍也

当院に緩和ケア病棟が開設されて1年になります。緩和ケア病棟では、がんに対して積極的な治療は行いませんが、病気に伴う痛みや息苦しさなどの様々なつらい症状を和らげる治療やケアを行っています。また緩和ケア病棟では、この一年間に七夕、花火観賞会、クリスマス会、節分など季節を感じてもらえるような催しや、患者さんによる作品展、誕生会やお茶会、ボランティアによる演奏会などを通して生きる喜びを感じてもらえるような多くのイベントを行ってきました。出来るだけ苦痛がなく、患者さんやご家族の過ごされる時間を大切にし、病棟にいながら季節を感じられ、ゆったりと過ごしてもらえるようにしています。また、自宅に帰りたいという患者さんや家族の思いを大切にし、地域とも連携を取りながら外出泊や退院に向けての支援も行っています。実際に外出泊や退院される患者さんもたくさんおられます。病気の進行に伴うつらい症状のある患者さんおよび患者さんと共に苦しんでおられるご家族のために、これからもスタッフ一同、力を合わせ最善の医療、ケアを提供していきたいと考えています。

緩和ケア病棟でのボランテァ演奏会

産科婦人科外来が移転しました

産科婦人科　今村　加代

病院再開発に伴い、産科婦人科外来が移転しました。以前と同じ3階ですが、場所が広く機能が充実しました。産科婦人科は女性を対象とした科ですが分野は幅広く、腫瘍・不妊内分泌・周産期とわかれます。そのため、いろいろの疾患を持った幅広い年齢層の患者さんがおられます。以前は、出産で喜ばれている妊婦さんと不妊で悩まれている患者さんが同じ待合室で座っていたりという光景がみられましたが、現在では産科と婦人科の待合室を分けることができるようになりました。

外来の場所が多少分かりにくいため、外来を通り過ぎて産婦人科病棟まで来てしまう方もいるようですが、受付は当科のマスコットウサギの「ぎねぴょん」が目印です。明るい看護師・助産師・クラークさんが迎えてくれます。

ぎねぴょん

外診室4部屋と内診室3部屋は、大変機能が充実しました。これまでは通路も狭く、緊急搬送時（特に母体搬送など）にご迷惑をかけることが多かったのですが、産科側の通路はとても広くなりストレッチャーも入院ベッドも楽に出入りできるようになりました。

また、不妊治療の処置をする部屋も広くなり、さらに回復室も隣接しているため処置後の患者さんの搬送も楽にできるようになりました。内診室は以前から清潔に保つように努力はしていましたけれど、やはり機械や建物の老朽化で不潔に感じてしまう方もおられたかもしれませんが、現在は改善されています。今後も、羞恥や苦痛を感じる内診という診察をなるだけ楽に受けていただけるように配慮していこうと思います。産科婦人科医師の数は少なく、さらに緊急手術や分娩などがあると患者さんをお待たせすることもありますが、慣れたスタッフが多くチームワークで頑張っています。島根県内の患者さんに質の高い医療を提供できるようこれからも頑張りますので、よろしくお願い致します。

内診室

産科待合

婦人科待合

リハビリテーション部の本移転が完了しました

リハビリテーション部　岩田 章史　馬庭 壯吉

9月15日に本移転作業が終了し、9月18日から外来棟3階の「新装リハビリテーション部」における業務を開始しました。32年前に病棟2階で「理学療法部」として業務を開始して以来の本格的な改修・移転でした。

リハビリテーションの対象疾患の拡大、訓練開始の早期化といった近年の業務内容の変化を考慮して、設備や機器の選択・配置を行っています。例えば安全対策としてのナースコール、酸素吸入・吸引装置やストレッチャーを配置しました。また理学療法部門では心大血管のリハビリテーション開始を見込んだ運動機器の導入、作業療法部門ではより個別的な日常生活動作訓練を行う機器や個室の設置、言語聴覚療法部門では療法室の3部屋への増室、そして言語障害はもとより摂食・嚥下機能障害のより個別的な評価・治療に対応した機器・設備の設置等、リハビリテーション業務の将来を見越してスタッフみんなで工夫しながら取り組みました。

医療を取り巻く社会環境は今後も変わっていくことが予想されます。最終的に私達スタッフが患者さんにどう対応するかが鍵になることは言うまでもありません。今回の移転を一つのステップとして、より良いサービスの提供と柔軟な対応を心掛けながら前進していこうと考えています。

受付

理学療法コーナー

作業療法コーナー

言語聴覚コーナー

クリニカルスキルアップセンターが移転しました

クリニカルスキルアップセンター　山本 奈美

クリニカルスキルアップセンターは平成21年10月に新設され、様々なシミュレータを用いて院内・院外の医療従事者に対して研修を行っています。平成23年度は、学内対象の講習が117回1479名、学外対象の講習が84回985名の参加がありました。今回の移転までは看護学科棟に演習室を設置していましたが、平成24年10月1日より外来2階に移転致しました。移転再開日当日には記念式典を実施し、院外だけでなく、院外の地域医療

機関や他大学のシミュレーション教育関係者など61名に参列頂きました。

移転したスキルアップセンターは、模擬病棟2室、医療面接室4室、心音・呼吸音聴診などの診察実習を行う「診断技術訓練室」、採血・超音波・血管内治療などの医療手技実習を行う「医療技術訓練室」、妊婦や小児の診察処置実習を行う「妊婦・新生児治療訓練室」、シナリオなどの総合演習などを行う「チーム医療実践室」、麻酔の導入から全身管理など高度な処置を行う「蘇生訓練室」など目的に応じて17部屋の演習室があり、実際の臨床により近いトレーニングが可能となっています。そして移転に伴い、瞬きや発汗が可能な「SimMan3G」や、実際に臨床の現場で使用している麻酔器を接続してガス交換が可能な「高機能シミュレータ　HPS」など新しいシミュレータも導入しました。

スキルアップセンターでは月に一回、毎月第2火曜日に院内BLS講習会を行っているほか、希望があれば、心音・呼吸音聴診、採血、超音波、心電図など随時講習会を行っています。まだ新人で手技に不安がある・・・、基礎からもう一度フィジカルアセスメントを習いたい・・・、など少しでも不安がある方！！新しくなったクリニカルスキルアップセンターで是非講習会を受けてみませんか？専任インストラクターが優しく丁寧に教えます。詳しいことが知りたい方はお気軽に下記までお問い合わせ下さい。

クリニカルスキルアップセンター
電話　0853-20-2551（内線　2551）
メール　skill-up@med.shimane-u.ac.jp

移転再開記念式典の様子

蘇生訓練室

AB型病棟訓練室

Aiセンター（実績・解析）について

Aiセンター　竹下　治男

Autopsy Imaging（Ai死亡時画像診断）センターが昨年6月より開始され1年が経過いたしました。死因の最終確認、診断の透明性および中立性を確保するための地域医療における幅広い中核的役割を期待して、全国に先駆けて24時間体制により設置稼動され不安もありましたが、皆様のご理解ご協力のおかげにより順調な運営を行え軌道にのりました。御礼申し上げます。ここまで8月31日現在までの実施状況から、本院入院患者ご遺体291件、本院外来患者ご遺体34件、解剖体ご遺体（解剖実習用ご遺体）45件、法医検査ご遺体13件の合計383件が施行され、万遍なく各方面からご利用いただいております。本年4月からは島根県警からもAi予算が導入され、後ればせながら利用は急増し、Ai実施率向上とあいまって、死因究明の精度向上にも威力を発揮できております。また、Ai施行併用病理解剖22件及び同法医解剖2件も執り行われ貴重なデータの蓄積としても重要であり今後の研究的側面への利用が期待されます。さらにAi併用献体ご遺体を用いた系統解剖学における学生への教育も本格的に予定がされております。このように臨床・解剖実務・研究・教育等幅広い相互連関した大学全体への利用の根幹も形成されつつあります。9月26日には、Ai設立に先導的主導的な取り組み

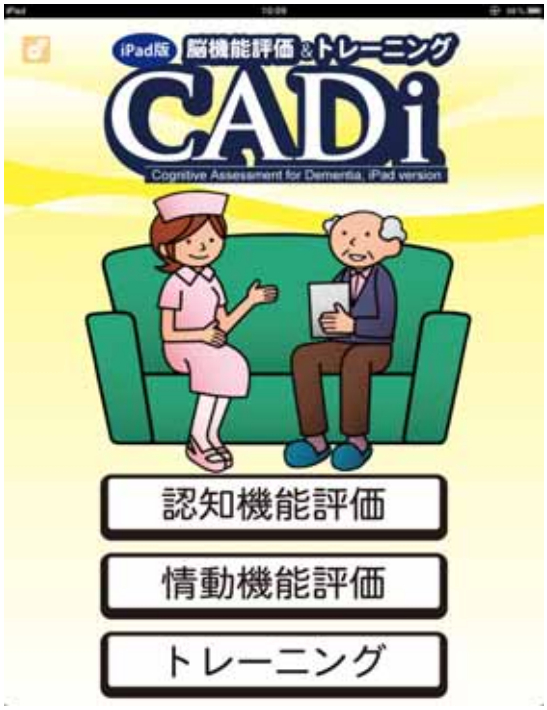
をいただいた小林祥泰学長（前病院長）をお迎えして第1回Aiセンター研修会を開催し、当院でのAiの施行状況や興味深い症例提示等につき北垣一副センター長からおはなしされ、活発な討議が行われ、井川幹夫病院長より今後の展望をご示唆いただきました。今後は疑問症例や教育的症例などは何らかの場で報告できればという結論になり、研修会等さらなる交流やご意見の必要性を感じました。

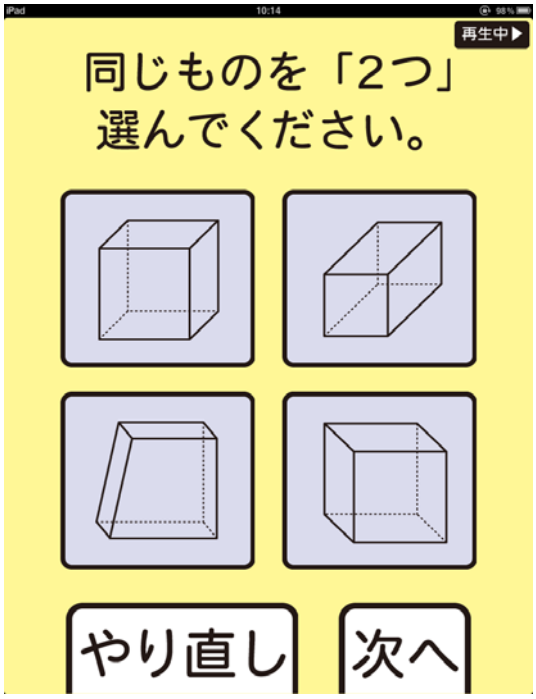
今後ともAiを端緒とした大学貢献から先進的な社会地域貢献を行っていく所存でございますので何卒宜しくお願い申し上げます。

iPad版認知機能検査CADiの開発

内科学第三　小野田　慶一　山口　修平

当講座では、島根大学重点研究プロジェクト「コホート研究プラットホームを活用した高齢者難治性疾患予防研究」の一つの取り組みとして、住民健診等における認知症のマススクリーニングを目的としたiPadアプリケーションの開発を行っています。この取り組みは、総務省の戦略的情報通信研究開発推進制度（SCOPE）の委託研究に採択され、開発が進んでいます。住民健診では人的・時間的制約から既存の確立された認知症検査を行うことは困難でしたが、タブレット型コンピュータであるiPadを利用することで、認知症スクリーニングを短時間で並列運用することが可能となりました。このiPad版認知機能検査は10項目の問いで構成され、その合計得点によって認知症精査の必要性を判断できます。我々はこの検査アプリケーションをCADi（Cognitive Assessment for Dementia、iPad version）と命名しました。Cadiは英語で下級裁判官になるそうです。確定ではないが、最初の判断をしてくれるという意味でアプリの目的に沿う名前かもしれません。現在、多くの患者さんや地域住民の方のご協力を得て、この検査の妥当性及び信頼性を検証中です。本年度中には検証作業を終了し、AppleStoreにて無料での一般公開を目指しています。





外来の第3ステージ移転について

病院再開発担当　渡部　晃

9月15日から10月21日にかけて外来･中央診療棟と病棟諸室の改修工程にあわせ第3ステージの移転がおこなわれます。

今回は、整形外科(9/22)、**リハビリテーション部**(9/15)、**スキルアップセンター**(9/21)、 **栄養治療室事務室**(10/19)、**病歴諸室**(**スキャナー室、カルテ閲覧室、保守ＳＥ室**) (10/20) 、**看護部諸室**(**看護師ロッカー室、外来看護師休憩室、看護師仮眠室**) (10/20)、**売店** (10/21) **の**本移転**と脳神経外科**(9/22)、**認知症外来**(9/22)、**在宅ケア指導室**(9/22)、**ドライラボ**(9/22)、**患者給食厨房**(10/21)**の**仮移転**が実施されます。**

10**月**1**日からは、外来の各フロアをつなぐ**エスカレータ**の運用が開始され、**売店拡張工事**完了部分での営業が開始されました。**

また、検査部では全改修工程10**工区の内、第**7**工区の居ながらの改修工事が、また、放射線部では全改修工程**7**工区の内、第**4**工区の居ながらの改修工事が進められています。**

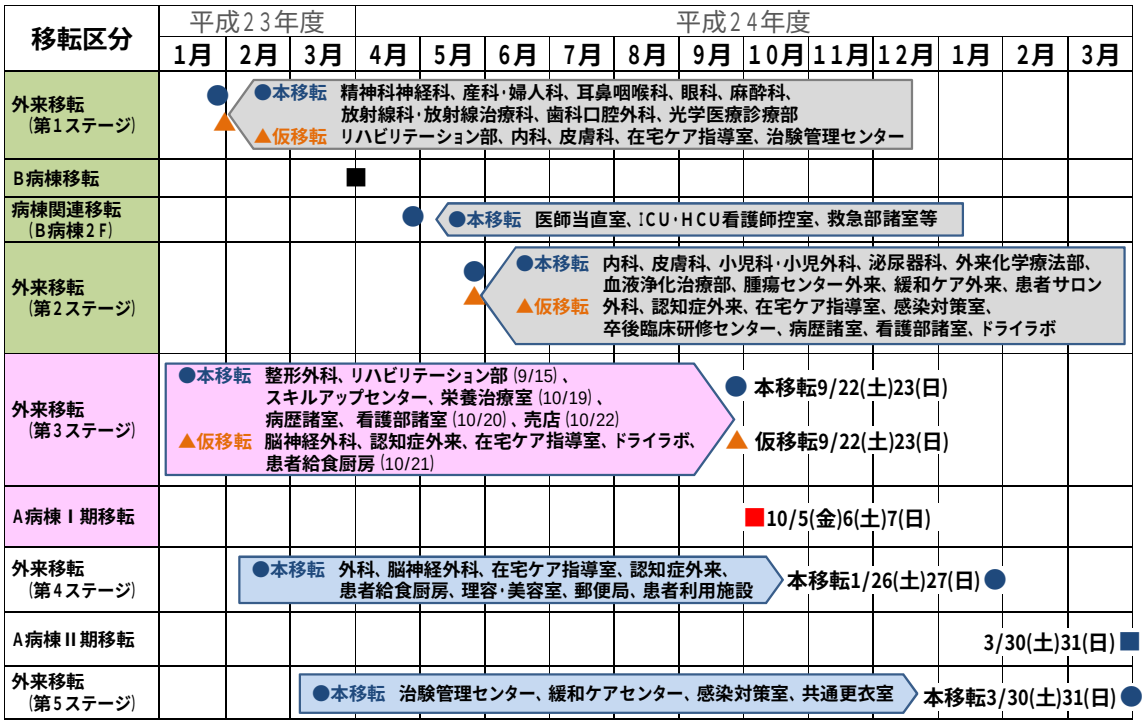
整形外科･脳神経外科
在宅ケア指導室受付

外来エスカレータ

仮オープンした売店

リハビリテーション部受付

病院再開発に係る移転スケジュール

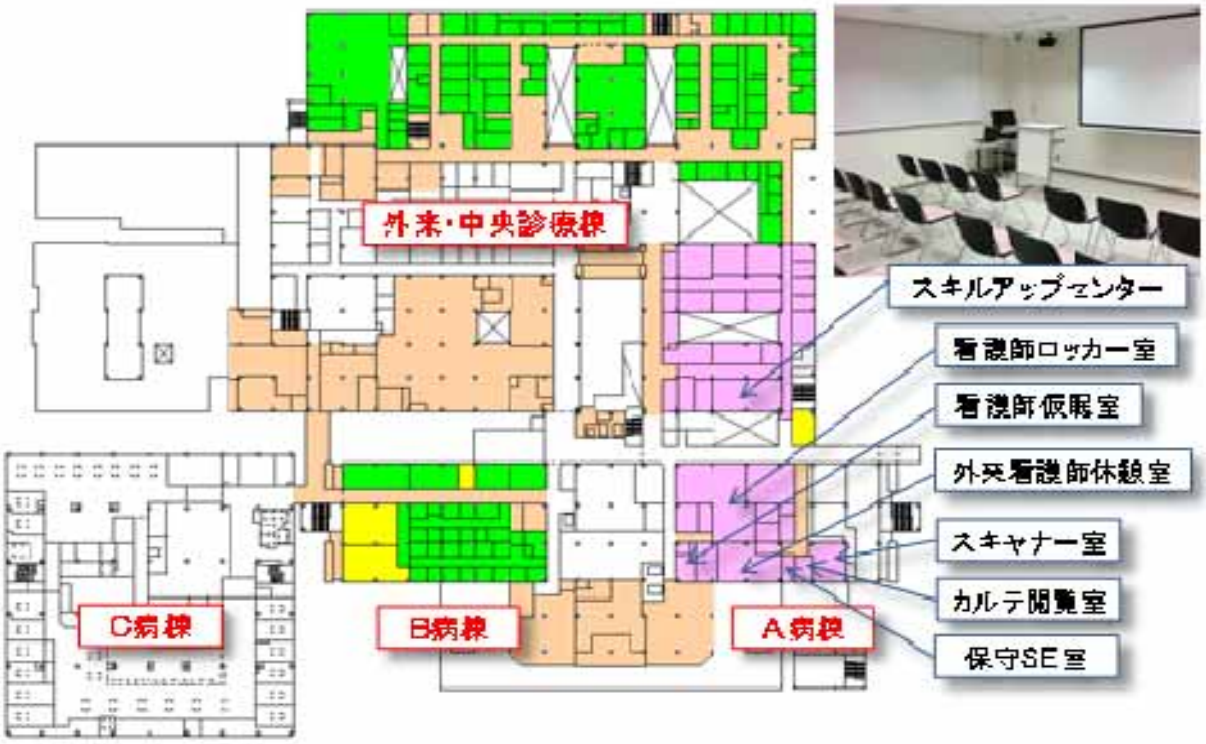


病院1F

外来・中央診療棟の1階部分では、整形外科と在宅ケア指導室の一部が本移転しました。また、脳神経外科が仮移転しました。病棟部分では、栄養治療室の事務諸室の本移転(10/19)と患者給食仮厨房の仮移転(10/21)が実施されます。

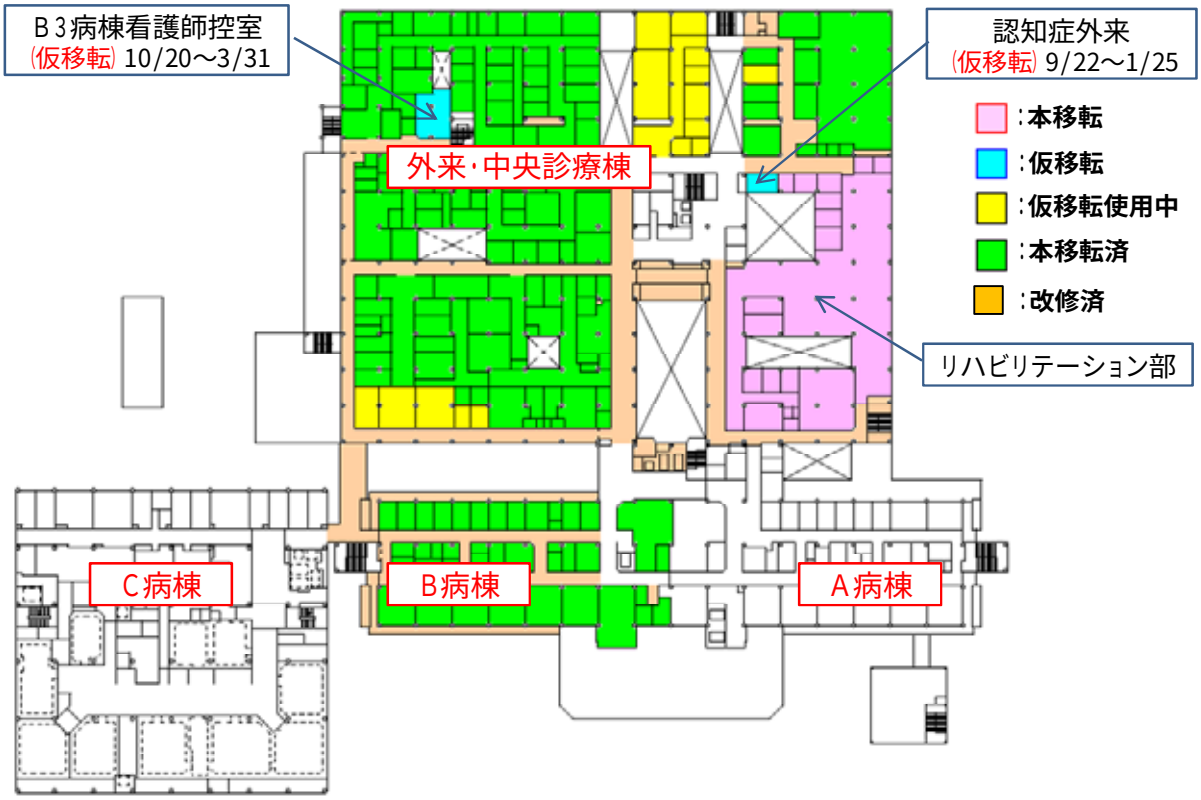
病院2F

外来・中央診療棟の2階部分では、スキルアップセンターが本移転しました。病棟部分では、看護部諸室(看護師ロッカー室、外来看護師休憩室、看護師仮眠室)、病歴諸室(スキャナー室、カルテ閲覧室、保守SE室)が10/20に本移転します。



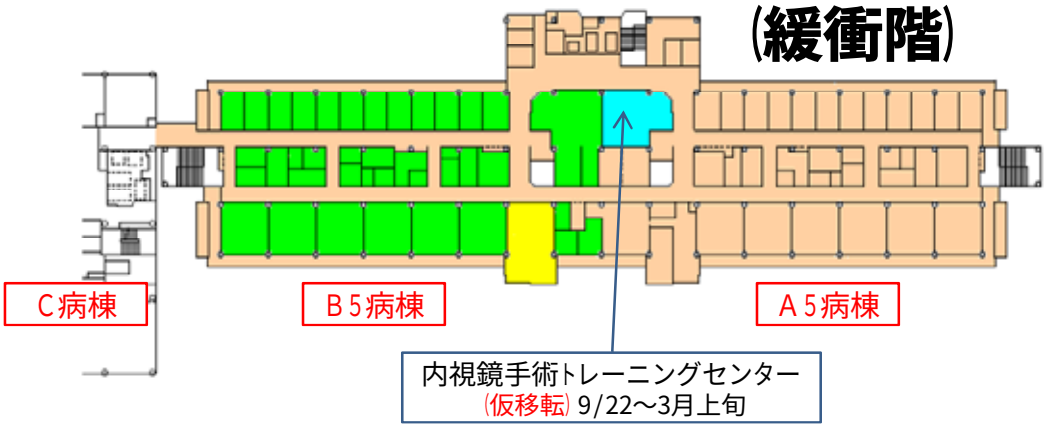
病院３Ｆ

外来･中央診療棟の３階部分では、リハビリテーション部が本移転しました。また、認知症外来がリハビリテーション部の一角に仮移転しました。また、看護部諸室の移転に関連してＢ病棟３階看護師の控室が外来中診棟の中に仮移転（10/20）します。



病院５Ｆ

Ａ病棟Ⅱ期改修工事では、Ａ病棟３･４階が改修エリアとなるため、Ａ病棟５階が緩衝階となります。この階のスタッフステーション部分に内視鏡手術トレーニングセンターが仮移転されました。また、この階では、改修工事に伴う各設備の保管場所としても利用することとなっています。



A病棟Ⅰ期の移転について

病院再開発担当　渡部　晃

10月5日(金)と10月6日(土)にAB病棟の患者移送が実施されます。

A病棟5階から8階にかけてのⅠ期改修工事が完了したため、10月5日(金)午前中に精神病棟の患者移送を、10月6日(土)午前中に図1の診療科配置に沿った患者移送が実施されます。

A病棟5階は、来年4月まで緩衝階となりますので、その間、内視鏡手術トレーニングセンター(仮移転)、整備期間中の病院設備保管の場所として利用されます。

A病棟廊下のボーダー(廊下両端部分)カラーは、薄い緑色が設定されており、A、B、C病棟で色分けされています。

■移転時の病床数変化

区　分	現　状	10月移転後	整備後(H25.4～)
A病棟	50	102	208
B病棟	232	244	208
C病棟	183	183	184
合　計	465	529	600

A病棟6階廊下

【図1】

現在(移転前)

区分	A病棟		B病棟	
階数	診療科	病床	診療科	病床
8	改修工事		耳鼻咽喉科 眼科 循環器内科 共通	42
7	改修工事		心臓血管外科 消化器総合外科 共通	42
6	改修工事		呼吸器外科 脳神経外科 整形外科	42
5	改修工事		精神科・神経科	30
4	緩衝階		内分泌代謝内科 血液・血液内科 膠原病内科 腎臓内科 呼吸器・化学療法内科 放射線科、放射線治療科 歯科口腔外科 RI、Re病床 共通	40
3	消化器内科 肝臓内科 神経内科 皮膚科 共通	50	産科 婦人科 泌尿器科 麻酔科	36

移転後

区分	A病棟		B病棟	
階数	診療科	病床	診療科	病床
8	精神科・神経科	30	耳鼻咽喉科 眼科 共通	42
7	消化器内科 肝臓内科 神経内科	36	消化器総合外科 神経内科 膠原病内科 共通	42
6	循環器内科 呼吸器・化学療法内科 整形外科	36	心臓血管外科 呼吸器外科 整形外科	42
5	緩衝階		脳神経外科 泌尿器科	42
4	改修工事		内分泌代謝内科 血液・血液内科 腎臓内科 皮膚科 放射線科、放射線治療科 麻酔科 RI、Re病床 共通	40
3	改修工事		産科 婦人科 歯科口腔外科 共通	36

平成20年度からスタートした病院再開発事業も完了まで後半年となりました。仮移転、撤去・穿孔工事等でご不便をおかけいたしますが、今後とも皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

就 任 挨 拶

泌尿器科　椎名　浩昭

この度2012年10月1日付けで、井川幹夫教授（現病院長）の後任として泌尿器科学教室を主宰させて頂くことになりました。謹んでご挨拶申し上げます。

私は1985年に第4期生として島根医科大学（現島根大学医学部）を卒業、直ちに泌尿器科学教室に入局し、１）腎移植・腎血管外科・慢性腎不全と2）泌尿器がんの診断・治療を中心に診療と研究に従事してきました。1987年の本院第1例目の生体腎移植以来、腎移植は自分のライフワークと考え、本院以外にも兵庫県立西宮病院での腎移植手術にも手術指導として参加し多数例の腎移植を経験しました。本院は島根県内唯一の献腎移植認定施設であり、生体腎移植のみならず献腎移植の啓発・普及にも努力し島根県の腎移植医療の中心として今後も研鑽を積んでいく所存です。一方、糖尿病性腎症が血液透析導入の原疾患として第1位となり、我が国でも血液透析導入症例が30万人を超えました。現在は当科が中心となって行っている血液浄化治療も、今後は内分泌代謝科や循環器内科など多くの先生方に参入して頂き、島根県の血液浄化治療の中心としてより良い透析医療を地域に還元したいと考えています。

待望の手術支援ロボット「ダヴィンチ」は井川病院長のご尽力により本院に導入され、11月から本稼働となります。初期の前立腺がんに対しては低侵襲手術としてロボット支援前立腺全摘除術を行い「機能温存」と「制がん」のバランスのとれた診療を心がけたいと考えています。一方、県内全域から進行がん症例の紹介が急速に増加していることも事実で、他科医師のご支援やご協力を賜りつつ根治性を求めて集学的治療を実践していく所存でございます。

浅学菲才ではございますが、何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

就 任 挨 拶

事務部長　藤 原　楠 生

私は平成24年10月1日から島根大学医学部事務部長として勤務しています。これまでは、大島商船高等専門学校の庶務課長、島根大学医学部の医療サービス課長、愛媛大学医学部の総務課長、高知大学医学部の医療サービス課長、富山大学の医薬系病院事務部長を経て今に至ります。ほとんど医学部及び病院の現場の事務を担当していました。

さて、昨今は国も限られた予算の中で配分を行わざるを得ない状況になっており、病院運営も年々予算が厳しくなってき、病院をめぐる経営環境は年々厳しくなっています。

このような中で、事務部門、特に要となる事務部長などの役割が大きくなっています。病院の財政が厳しい状況では、時代の変化への対応がより一層求められ、事務能力の向上は病院にとっても喫緊の課題であると思っています。

現実は簡単ではありませんが、病院などの現場では業務の運用を可能な限り効率的に行っていくために、事務部長は勿論のこと各部門の課長や現場の職員一人ひとりが、いかにやる気を持って仕事に取り組むかが重要になってきます。

・起きている問題を他人のせいにするのではなく、自らの問題として行動すること。

・部門間のセクショナリズム（一つの部門や立場にとらわれ、排他的になる傾向やなわばり意識）をなくすこと。

・おかしいと思ったことはすぐに改善すること。

さらに経営に対する関心とコスト意識を持ち、新しい知識や情報を入手すること、などが必要と考えています。

問題解決のために、事務部長・課長にはこれまで以上に様々な力が求められています。特に、病院では専門職員が多く、患者さんをはじめ様々な関係者の存在する中で、人や組織に働きかけて良い方向に変化させる力、共に問題解決について考え最適の方法を生み出す力、また、コミュニケーションの力は何よりも大事

な力です。

患者さんが病院を選ぶ時代となり、医療や経営の質が問われる中で、病院としてどのように発展していくのか、このことを理解したうえでのマネジメント力が不可欠であり、それがこれからの事務部長や課長に求められていることだと思います。

最後に、偉そうなことを書きましたが、事務部全体として、患者さんをはじめ病院長や経営陣そして各部門から、より信頼される事務組織を目指し、がんばっていきたいと考えていますので、皆様のご協力・ご指導を頂きますようお願いいたします。

DNA分解酵素(DNase I)を用いた迅速簡便な超急性期心筋梗塞診断法の開発

法医学講座　藤原　純子　竹下　治男

デオキシリボヌクレアーゼＩ（DNase I)は遺伝的多型形質であることから、法医学の分野では個人識別に応用されてきました。また、DNase I は単なる消化酵素と考えられてきましたが、疾患との関連も報告されるようになりました。

生活習慣の欧米化により急性心筋梗塞の発症率が増加しています。急性心筋梗塞の早期診断、治療は生命予後を改善することが知られ、なるべく早期に診断できる新しいマーカーが切望されています。私たち研究グループは血清におけるDNA分解酵素I（DNase I）活性が、心筋梗塞発症後30分-2時間以内という極めて早期に一過性上昇を示すことを明らかにし（図1）、新規な急性心筋梗塞の診断マーカーとしての可能性を発見しました。この活性の一過性は他の心疾患では見られず（図2）、この現象を利用した迅速簡便な超急性期心筋梗塞診断法の開発を目指しています。

これまで診断法開発のためには唯一の難点がありました。従来の血清DNase I活性測定法は長時間を要し、臨床応用が困難であったことです。そこで、マイクロチップ電気泳動技術を用いて、新規なDNase Iの迅速測定法の開発を試みました。マイクロチップ電気泳動（図3）は、微量の試料について極めて短時間内に電気泳動を行える装置です。DNase I がDNA分解することを利用し、分解されたDNA断片をマイクロチップ電気泳動装置で電気泳動することによって、迅速簡便なDNase I活性測定を可能としました（Fujihara et al., Anal Biochem. 2011；413(1):78-79）。

この成果とこれまでの業績により筆者は、2012年6月に日本法医学会学術奨励賞を受賞いたしました。

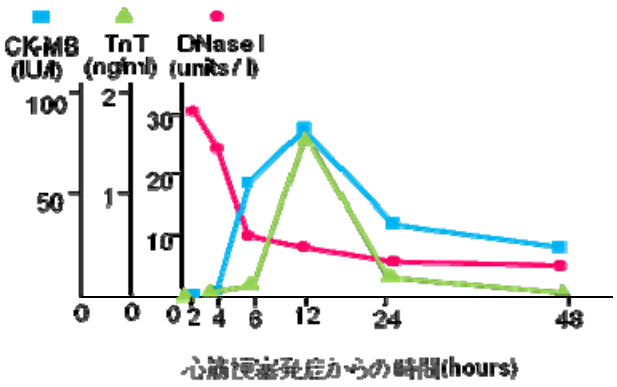


図1 .血清DNase I活性の一過性上昇は急性心筋梗塞の診断マーカーである。

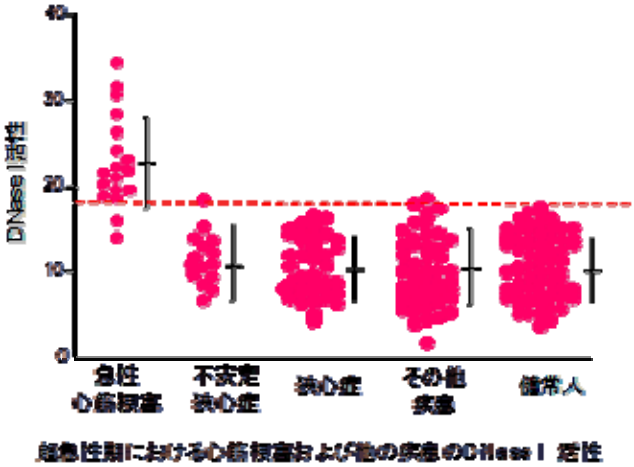


図2 超急性期における心筋梗塞および他の疾患のDNase I活性

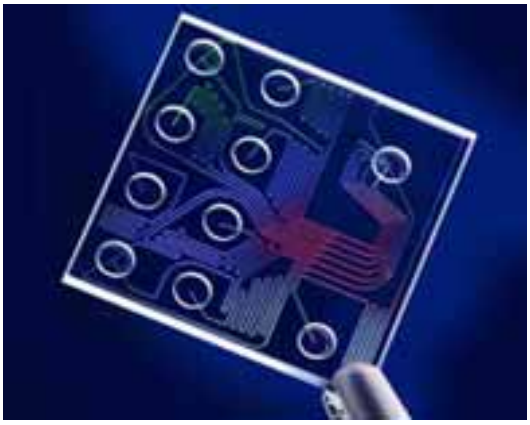


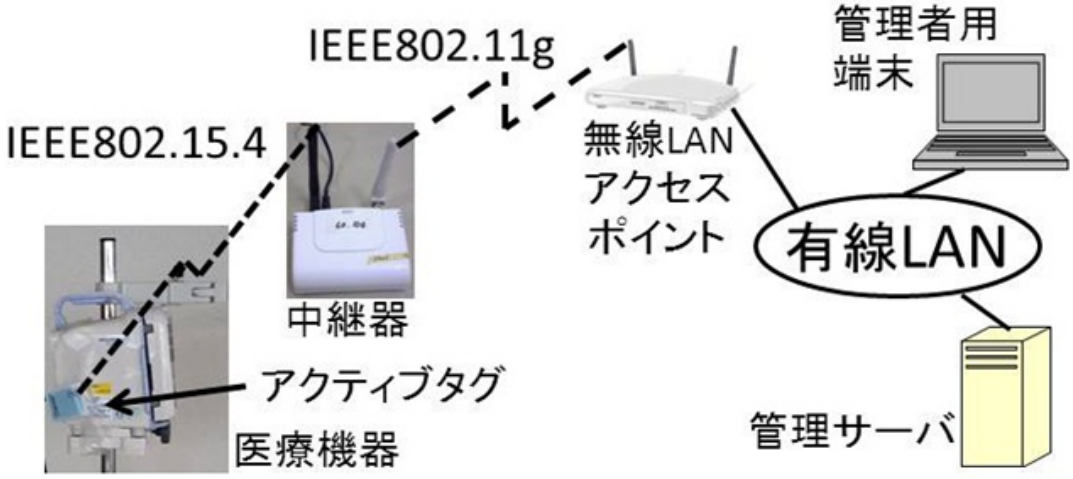
図3 マイクロチップ（左）とマイクロチップ電気泳動装置（右）

ICタグを活用した医療機器運用管理システムで新聞取材

医療情報部　花田　英輔

医療情報部の花田准教授が清水建設(株)情報ソリューション事業部との共同研究の成果として、ICタグを取り付けた医療機器の位置だけでなく、機器の稼働状態も把握可能なシステムを開発したことは前号に掲載しましたが。昨年11月の学会および本年3月の国際学会での発表したところ取材申入れがあり、7月10日付の山陰中央新報に掲載されました。

このシステムは電源オンの医療機器周辺に電磁界が発生することを応用し、電池を持つICタグ(アクティブタグ)とセンサを組み合わせることで、タグが自ら信号を中継器に発します。中継器は受信情報に通信状態を加えサーバに送ります。このシステムはタグの状態、中継器の位置(第三候補まで)等を表示可能であり、タグを取り付けた機器の状態と大まかな位置、稼働時間などの把握が可能です。これまでICタグを利用して位置把握を行う技術は数多く開発されてきたが、タグを取り付けた機器の動作状態までは把握できませんでした。実証実験は済んでおり、MEセンターはぜひ欲しいシステムとして予算獲得に向け活動中です。



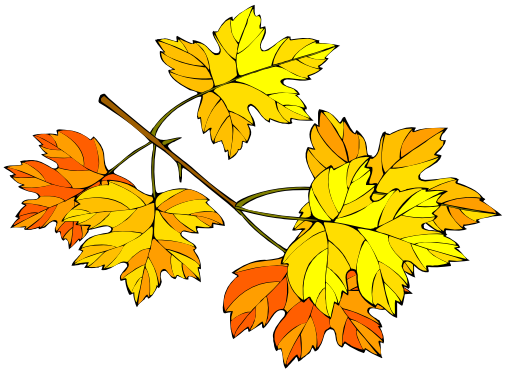
システムの動作概念

機器管理システム

設定　モニタリング

状態	UID	電池電圧(V)	温度[℃]	機器名	第一候補	電波強度1	第二候補	電波強度2	第三候補	電波強度	累計稼働時間(h)	累計停止時間(h)	稼働率	受信時刻	ボタン
停止	0200E3	3.11	27.0		ICU西	-73.5	ICU東	-77.0			0.41	1.41	22.4%	2011/06/15 10:10:51	リセット
正常稼動	020592	3.19	26.7		ICU西	-77.0	ICU東	-85.5			0.25	1.06	19.3%	2011/06/15 10:10:46	リセット
正常稼動	020596	3.05	27.6		MEセンター	-61.0	ICU東	-89.0			0.79	1.14	40.8%	2011/06/15 10:10:54	リセット

システムの状態表示(1列が1つのタグを示す。上の1つは停止、残り2つは稼働中。



駐日エチオピア大使が医学部を訪問

総務課　総務担当

2012年7月16日（月）・17日（火）、マルコス・タクレ・リケ駐日エチオピア大使が、本学医学部に来学されました。

マルコス・タクレ・リケ駐日エチオピア大使

今回の訪問は、エチオピアでは、同国ハワサ大学の医学教育、医学支援について日本のパートナーとなる大学を探しているとのことで、本学医学部へその趣旨を説明に来られました。

大使の島根県訪問は初めてであり、16日には、小林祥泰学長、大谷浩医学部長らとともに、平成の大遷宮による修造間近の出雲大社や島根古代出雲歴史博物館などを訪れ、感慨深げに見学されていました。

17日には、医学部学生・教職員に対し「The Nation on Economic Development and Transformation（エチオピア：経済発展と社会改革の国）」と題して講演会も行われ、会場の31番講義室は超満員となりました。この講演会の様子は、遠隔授業システムを使って松江キャンパスにも中継されました。

井川病院長の案内で新病棟を見学

出雲大社見学

超満員の講演会

溝口島根県知事を表敬訪問

山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム４大学合同ＦＤを出雲で開催

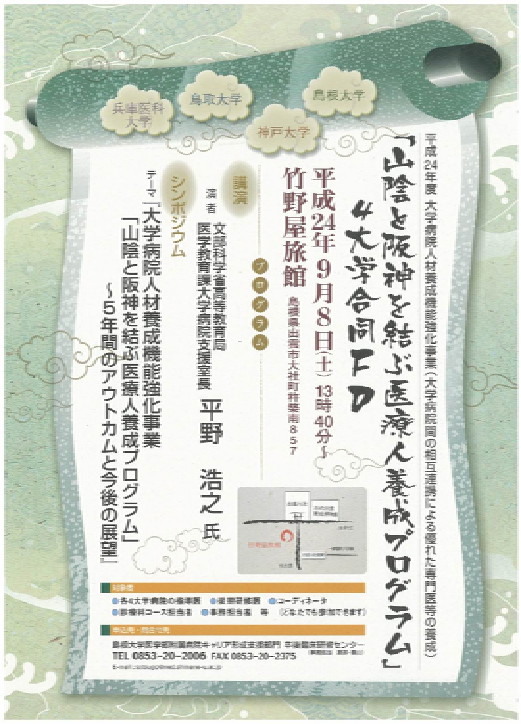
病院医学教育センター　廣瀬　昌博

9月8日（土）、文部科学省「大学病院人材養成機能強化事業（大学病院間の相互連携による優れた専門医等の養成）」の一つである「山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム」4大学（島根大学、神戸大学、鳥取大学、兵庫医科大学）合同FDが、出雲大社正門前の政府登録国際観光旅館竹野屋で開催されました。

このFDは、本事業が最終年度であることから、全体テーマを「5年間のアウトカムと今後の展望」として、文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室の平野浩之室長をお迎えし、4大学から関係者約70余名が参加しました。本学総合医療学講座石橋豊教授の総合司会のもと、大谷浩医学部長、プログラム事業責任者である井川幹夫病院長の挨拶に続いて、プログラム実施代表者の熊倉俊一教授からプログラム概要の説明がありました。その後、第一部で平野室長による「大学病院における若手医師の研修体制等の課題と今後の展望」と題した基調講演が行われました。引き続き、第二部は島根大学コーディネータの廣瀬昌博病院医学教育センター長の司会のもと、鳥取大学北野博也病院長から4大学を代表して挨拶を行った後「4大学プログラムの運用と地域医療再生への展望」をテーマにシンポジウムが行われました。

基調講演では、平野室長は、大学病院連携による質の高い専門医や研究者の育成を目的とした本事業を推進してきたお立場で、帰学率などのデータを提示しながら2002年（平成16年）度開始の新医師臨床研修制度による影響から、本事業を推進するに至った経緯や本事業の中間報告の結果を踏まえ、本事業に引き続く事業について詳細に述べられました。次の事業では、疾病構造の変化等による2025年の医療体制を見据え、現時点との相違を考慮しながら将来の医療ニーズに合わせた対応策を講じる必要があり、そのためにchallengingで達成可能な目標を設定した上でのプログラムを立案するよう要望されました。シンポジウムでは、神戸大学から伊藤智雄教授、兵庫医科大学から芳川浩男教授ならびに鳥取大学から中本成紀講師の各コーディネータが過去4年半のアウトカムと成果を創出するための方策等について紹介され、研修者からは実際の交流研修によって得られた成果が報告されました。ディスカッションでは、熊倉俊一教授や本学整形外科内尾祐司教授から貴重なご発言がありました。今回のFDでは、過去4年間のアウトカムにより、本事業の重要性、必要性を再認識するとともに、平野室長へ本事業に代わる次の事業を求める絶好の機会となりました。最後には兵庫医科大学太城力良病院長の閉会の辞で本FDを終了致しました。

参加のみなさまのおかげをもちまして、本FDを盛会裡に終えることができました。紙面をお借りして御礼申し上げます。有難うございました。



4大学プログラムFD開催ポスター

講演される平野浩之大学病院支援室長

4大学プログラム開催場

山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム４大学合同ＦＤを出雲で開催
－申請大学コーディネータとしての感想

病院医学教育センター　廣瀬　昌博

4大学合同FD終了後、1時間ほど休憩を挟んで懇親会がありました。再び本院井川幹夫病院長の挨拶、熊倉俊一教授の乾杯で始まり、文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室の平野室長に再度ご挨拶をお願い致しました。ご参加いただきました本学大平明弘眼科教授ならびに神戸大学苅田典夫教授からもお言葉を頂戴し、また、文部科学省に本学より出向中の壇さんからコメントがありました。さらに、若手医師からもそれぞれコメントをいただき、懇親会も盛会のうちに終了致しました。

このように4大学間の垣根が取り払われ、実際の交流ができたことが本プログラムの最大のアウトカムかもしれません。従来の医局制度からはとても考えられなかったことです。4大学プログラムは実際に大学間を交流した医師はのべ65名をかぞえ、この数は全国でもトップクラスと評価されています。このことは、文部科学省や他大学からも認識されており、「医療崩壊」に悩むわれわれのプログラムに対する真摯な取り組みの現れといえるでしょう。

しかし、この交流にも当初は問題がありました。阪神の神戸大学や兵庫医科大学では本プログラムでの交流は研修医師の受入れのみと認識されており、山陰の鳥取大学、島根大学は派遣側という、奇妙な機能分化が進んでいました。しかし、各大学のコーディネータの努力と各診療科長のご理解とご協力から、前述の交流者数に達することができたのです。

その結果、実際に交流した医師からは①自大学のみでは経験できない貴重な疾患や豊富な症例が経験可能であった、②他大学のスタッフと人的交流ができた、③今後の医師としてのキャリア形成にとても役立った、などのポジティブな声が聞かれており、研修医師を派遣した診療科からも同様の意見を頂戴しています。

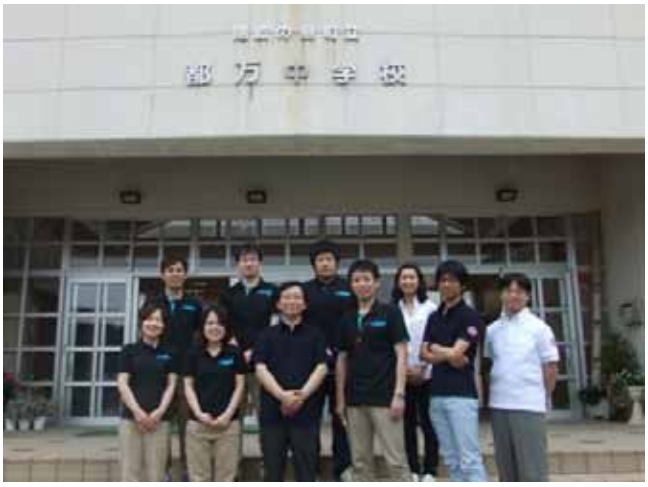
以上のようなこれまでの4大学プログラムの成果から、本事業の目的を徐々にではありますが、達成しつつあり、その最終目標である地域貢献も達成されてくるものと感じています。また、本プログラムの4大学間では、昨年6月に大阪で開催されました4大学連携プログラム連絡会議のなかで、本事業終了後も医師の交流を継続することが了解されています。

したがって、平野室長のコメントを参考に、今までに構築された4大学間の固い「絆」をもとに各診療科のご理解とご支援をいただきながら、各大学のプログラムコーディネータと協力し、次の事業へ展開していかねばならないと強く感じています。

成長期の運動器検診と教育啓発活動について

整形外科　内尾　祐司

当科では、2005年より学校における児童・生徒の運動器（脊椎や四肢の骨・関節・筋・神経）の検診を行っています。これまでに島根県下の児童・生徒、約42,000人の運動器検診に携わってきました。その結果、運動器の疾患や障害の罹患率は約10～20%と比較的高く、学年が高くなるにつれ罹患率が増加することが分かってきました。また、側弯症などの脊椎疾患のほか、四肢や腰椎のスポーツ障害が多く、運動・スポーツとの関係が深いことやからだの硬い子が2～3割存在することも明らかになっています。さらに、学校保健安全法で定められている定期健康診断ではこれらの運動器疾患はスクリーニングされにくいことも判明しています。このため、私たちは運動器検診体制の確立・充実のための取り組みを継続するとともに、当院リハビリテーション部や島根スポーツ医学・リハビリテーション研究会（Shimane Sports Medicine and Rehabilitation Team: SMART）と協力して、学校に出向いて地域の子どもたちに運動器の健康の重要性を説明したり、スポーツ障害予防のための身体のストレッチング指導を行っています。このような取り組みを通して、病院での診療だけでなく、地域の健康づくりにも貢献して行きたいと考えています。



隠岐の島町立都万中学校での運動器検診のスタッフ

隠岐の島町立西郷南中学校でのストレッチ指導風景

日本政府が主催する東南海地震を想定した広域医療搬送訓練に参加

ＨＣＵ看護師　渡邉　克俊

9月1日午前10時、高知県沖（南海トラフ）で震度7を観測する大地震が発生したとの想定で厚生労働省からの派遣要請があり、被災地での医療救援活動に本院のDMAT（災害派遣医療チーム：医師、看護師、調整員の5名で構成）が参加しました。24都府県から100余チームのDMATなど約1,800人が参加する過去に例を見ない大規模訓練が行われました。

本院のDMATは、米子空港隣接の美保航空自衛隊基地に参集し、航空自衛隊所有の大型輸送機CH-47で域内拠点である高知大学病院へ向かうよう指令を受けました。鳥取県内や島根県内のDMATが次々に美保基地に参集し、被災状況を収集しながら自衛隊機の出動待機を行いました。しかし、高知大学病院の上空で広範囲に雷雲が発達しているため着陸困難との判断を受け、急遽資機材を積み込んだ車両に乗り込み陸路で高知大学病院へ急行しました。衛星電話を使用したEMIS（広域災害救急医療情報システム）から災害の情報を取り込んだり、厚生労働省からの指示を受けたりしながら16時45分に高知大学病院内に設置されたSCU（傷病者を被災地から被災地外へ自衛隊機等で搬送する広域搬送拠点）に到着しました。先着の岡山県DMATから4名の重症患者を引き継ぎ、状態が安定化した患者から順に自衛隊機を使った県外への広域医療搬送訓練を行いました。

島根大学医学部ＤＭＡＴ(美保基地にて)
左から、土井薬剤師、岩田看護師長、救急医学山内准教授
ＨＣＵ渡邉看護師、消化器･総合外科比良助教

東海・東南海地震では、東日本大震災のような大規模な津波被害が想定されています。

太平洋沿岸地域では、負傷者の広域医療搬送が重要な救命手段になってくると思うので、今回はとても実りある有意義な訓練となりました。

美保基地での大型輸送機内訓練風景

高知大学医学部附属病院での広域搬送訓練風景

社会福祉士実習生を迎えて

医療サービス課　槇原　貴子

過日8月30日より9月14日の12日間、社会福祉士を目指す松江キャンパスの4年生の実習を受け入れました。

私たち医療ソーシャルワーカー（MSW）は、社会福祉士を基礎資格とし業務に当たっています。社会福祉士の倫理綱領の中にも「教育における責務」として、「スーパービジョンを担う社会福祉士は、その機能を積極的に活用し、公正で誠実な態度で後進の育成に努め社会的要請に応えなければならない」とうたわれています。

実習の枠組みとして、病院という職場を理解してもらうこと、それぞれの職種の理解が必要であること、そしてMSWという専門職を理解してもらうという3本柱に沿って進めました。初めての社会福祉士実習生受け入れで、戸惑いも多かったのですが、相談者の真のニーズを捉えることや気持ちや暮らしに寄り添うことが大切である事を伝えられるよう実習指導に取り組みました。

実習生の感想より、「12日間の実習期間で実際の面接場面やカンファレンス等に参加し、チーム医療におけるMSWの役割について学ぶことができました。面接場面では、患者さんやご家族の気持ちを受容するMSWの姿勢や心理社会的問題へのアセスメント方法等を経験することができました。この実習を今後の学習に活かしていきたいと思います。」

この実習を通して、MSWの仕事にやりがいを見いだし、動機付けにつながればと思います。

家族との面談

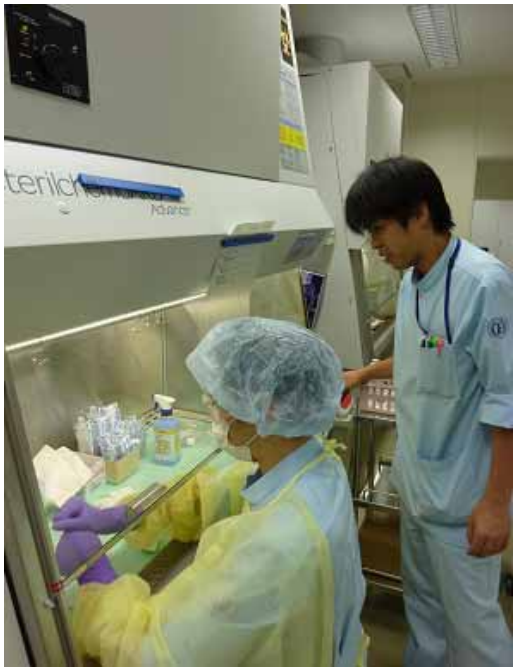
がん薬物療法認定薬剤師研修生の受け入れについて

薬剤部　直良　浩司

一般社団法人日本病院薬剤師会では、がん薬物療法に必要な知識、技能、臨床経験を修得した薬剤師を「がん薬物療法認定薬剤師」として認定する制度を設けており、この制度に基づいて認定を受けようとする薬剤師は、研修施設として認定されている医療機関で約３ヶ月間の研修を受ける必要があります。本院は島根県内で唯一の「がん薬物療法認定薬剤師研修施設」であり、県内の病院のがん薬物療法のレベル向上に寄与すべく、これまでに他医療機関（松江赤十字病院、松江市立病院、松江生協病院、県立中央病院、済生会江津総合病院、益田赤十字病院）から計7名の薬剤師研修生を受け入れています。

今年度は9月から、町立奥出雲病院の薬剤師岡本洋康先生が上記の研修生として薬剤部に在籍しています。本研修においては、日本病院薬剤師会が定めた「研修コアカリキュラム」に準拠して、がんの臨床に関する一般的知識、がん薬物療法に関する知識、がん薬物療法認定薬剤師に必要な技術および臨床経験などを、講義および実習形式で研修し、修得することになります。指導は、すでにこの認定資格を有している当院薬剤部員（井上昌樹薬剤主任、玉木宏樹薬剤師）を中心に他の薬剤師も協力して担当し、レジメン管理・鑑査、注射用抗がん剤の調製、患者への服薬指導・副作用モニタリング、がん薬物療法・支持療法に関する薬学的管理などを実践的に指導しています。そのほか、各癌種の病態・治療法、がんの放射線治療、がん患者の栄養管理、がん化学療法看護などについては、各診療科、栄養治療室、看護部に講義をお願いし、ご指導をいただいています。さらには、がん診療に不可欠なチーム医療の研修にも重点を置き、腫瘍センター、緩和ケアセンター、NSTなど各専門チームの回診やカンファレンスにも参加させていただいております。各部門の先生方には、本研修にご理解とご高配をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

研修生　岡本洋康先生（町立奥出雲病院薬剤師）



抗がん薬注射剤ミキシング研修

認定理学療法士、認定作業療法士が誕生しました

リハビリテーション部　馬庭　壯吉

この度、リハビリテーション部の江草典政、森脇繁登がそれぞれ認定理学療法士、認定作業療法士の資格を取得しました。認定療法士制度は日本理学療法士協会、日本作業療法士協会による認定制度で、医療広告ガイドラインに準拠するように新しい制度として誕生しました。新制度下では、江草は島根県第1号、森脇は島根県第3号の認定療法士です。リハビリテーション部の対応領域は年々拡大しており、現在はほぼ全ての科から依頼を頂いております。同時により専門的な知識を必要とされる場面も増えてきています。離床や運動機能の回復、病棟環境への適応、退院のサポートなどにお困りの際はぜひリハビリテーション部までご相談下さい。

認定療法士の誕生によって、各診療科からの依頼に今まで以上に柔軟に対応できるようになると考えています。今後も引き続きリハビリテーションの質的向上を図り、院内外で活躍できるよう精進して参りますので、御指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

江草典政認定理学療法士

森脇繁登認定作業療法士

認定医療社会福祉士取得

医療サービス課　太田　桂子

平成23年度から「認定医療社会福祉士」の認定がスタートしました。

認定医療社会福祉士は、「社会福祉士及び介護福祉士法の定める相談援助を行う者であって、保健医療分野において社会福祉実践に関する専門知識と技術を有し、科学的根拠に基づいた業務の遂行、及びスーパービジョンを行うことができる能力を有することを認められた者」とし、社会福祉士の更なる資質の向上と、国民ならびに連携する各専門職から信頼される専門職を目指しています。

このたび、公益社団法人日本医療社会福祉協会が認定する認定医療社会福祉士の要件を満たし審査に合格し、認定医療社会福祉士として認定していただくこととなりました。

今年度は第2期94名が認定され、全国では230名が登録しています。

現在当院では医療ソーシャルワーカー7名が、患者さん及びご家族の抱える心理社会的課題に対して、相談援助を通してさまざまな気持ちを聴き、医療スタッフや地域の関係機関への橋渡しを支援しています。

今回の資格取得はそのスタートラインにたったと自覚し、同僚や病院組織、地域社会への貢献に寄与することができるように研鑽をつんでいきたいと思っております。

笑い療法士について

腎臓内科　伊藤　孝史

島根大学病院では、当時泌尿器科に在籍していた森田祐司先生が2006年に初めて笑い療法士になられてから、医師3名、看護師4名が笑い療法士となり、各病棟に1人ずつ（笑）という所までは達しておりませんが、確実に笑い療法士が増えています。

笑い療法士は、「癒しの環境研究会」が認定していますが、笑いをもって自己治癒力を高めることをサポートする人のことです。笑いは、人が幸せに生きることを支え、また病気の予防にもつながっていきます。そうした笑いをひきだすのが「笑い療法士」です。

私自身は、月1回土曜日の午後に大学病院内で「げらげら公楽歩」という会を開催しております。他愛もない世間話から、笑いの効用、生きること・死ぬことなど、幅広く参加者の皆さんと笑いながら話をしています。

笑い療法士それぞれが、地域の講演会などでお話をさせていただいたりしていますが、実際は「そこにいるだけでほっとして元気になる」、これが癒しの環境の基本ですので、日々ベッドサイドで活躍しています。

我々笑い療法士は、「初対面なのに旧知の友に会うような暖かい雰囲気、笑顔、やさしい言葉、頼もしい態度、患者心理をよく知っていて、気持ちをくみ取りながら、その患者の個人としての人間性を守る。この人に任せたら安心だ、と患者が感じられる環境が『癒しの環境』である」と考えています。

島根大学病院がそのように思ってもらえる病院になり、それが出雲市内、島根県内へと広がって行けばいいなと思います。

看護部インターンシップを実施しました

看護部　八塔　累子

平成24年度に予定していましたインターンシップが終了しました。ご協力をありがとうございました。

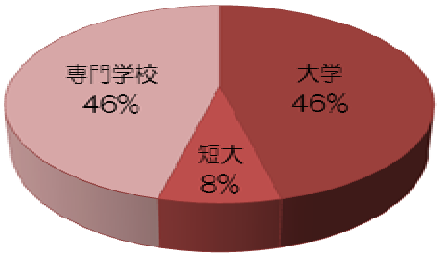
インターンシップは2日間コースを6回実施し、26名の参加がありました（図1）。「病院・看護部の概要とWLB支援」「卒後教育と人材育成」について説明後、1日半の看護体験を行いました。看護体験は、インターンが希望する領域の部署で行っています（図2）。

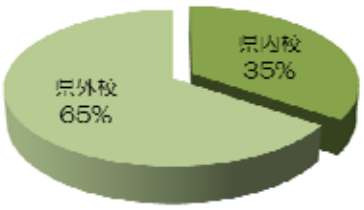
「大学病院なのにアットホームな雰囲気で安心した」「スタッフ同士の仲がいいんだな、と思った」「働いてみたいと思った」など、好印象な感想をいただきました。体験部署では、「熱心に質問し、手術室への興味が強くなった感じだった。是非、一緒に働きたい、と思える学生たちだった」「助産師を目指しており、目を輝かせていた。新生児の動きや妊婦さんの話に興味深く接していた」「担当ナースと清潔ケアを行ったり、患児と遊んだり一生懸命関わっていた」「来てすぐは緊張の様子だったが、半日の看護体験でキリリとし、急性期看護への関心が高まった感じだった」など、丁寧な受け入れをしていました。2日目の昼食は、体験部署の看護職とともに時間を過ごしています。島根大学病院の看護職の“素”の様子を知ってもらう機会にもなりました。

1日目の昼食や夕方の意見交換会はインターン同士が交流する時間となり、2日間の短い時間でしたが終了日には連絡先を交換の場面がありました。「またね。」と言って別れていました。

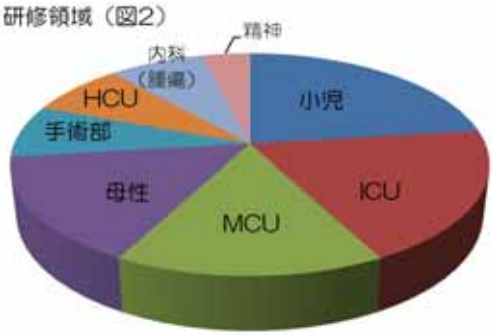
学生たちはインターンシップを通して、職場の雰囲気を知ることを大きな目的としています。看護職同士だけでなく、他職種同士の人間関係を知りたいと言います。中でも職員同士の‘あいさつ’が気になるそうです（＾＾）。

在籍・出身学校（図1）





研修領域（図2）



ナース輝いて！　仕事も子育ても頑張っていま～す

看護部　糸賀　佳代子

私は看護師6年目になります。縁あって島根に来て、結婚し2歳前になる双子の女の子の育児をしながら働いています。

核家族での生活で、主人も夜勤があるため、保育園の送迎や食事の準備等多くの困難がありました。子供たちも体調を崩すことが多く、自分の子供を看てあげられない悲しさを感じ、家事と仕事と育児の両立に悩み、もう無理かな…と仕事を辞める相談も家族としました。

しかし、その様な状況を看護部の方々へ話すと、病院で初めて育児部分休業という制度を取り入れていただきました。私は毎勤務1時間の部分休業をもらうことで、夜勤もしながら仕事を続けられています。院内で初の取り組みでしたが、病棟でもプログラムを作成して貰い、時間通りに帰れる様フォローして頂いています。超勤がなく、帰って食事の準備、子供の迎えもできています。

この制度を取得させてもらうことで、周りのスタッフの負担が増えているように思い、申し訳なさも感じますが、皆さんに助けていただき、家事と仕事と育児の両立ができていることをとても感謝しています。

今は子育て優先の働き方ですが、子育てがひと段落ついたころには、今の私と同じ立場の方をサポートできるようになれたらと思っています。

今でも仕事を続ける中で悩むことはあり毎日大変ですが、主人も結婚当初はしたことのなかった家事や育児を積極的に手伝ってくれ、仕事との両立を支えてくれています。家族で過ごす時間を幸せに感じながら、子供の笑顔に励まされ、楽しく頑張れています。

ナース輝いて！　感染リンクナースとして活動しています

看護部　三成　理絵

私がNICUに配属されもうすぐ2年、感染リンクナースとして活動を始め約1年になります。

NICUに入院している新生児は抵抗力が非常に弱く、感染症が発症すると重篤になりやすいため、新生児医療の三原則の一つとして感染予防が挙げられるほどNICUでは感染予防がとても重要になります。そのため、まず感染予防の基本である手洗い・手指衛生のスタッフ教育として、手洗いチェッカーを用いて正しい手洗い方法の確認、ゴージョーの使用量チェック等に合わせて手指衛生の推進活動を行っています。

また検査部に環境表面の細菌チェックを依頼し、調乳室の調乳環境の整備や沐浴槽の清掃方法の変更を行い改善に取り組んでいます。

私自身もまだまだ感染対策に対する知識が不十分であるため、分からない事はすぐにマニュアルに戻りスタッフと共に再確認の機会を共有したり、研修会に参加して自己学習を深めているところです。これからも、感染リンクナース会や感染管理認定看護師と連携しながら問題意識を持ちNICU内での感染予防に取り組んでいきたいです。

三木拓也さんの支援について

発起人一同

このたびロンドンパラリンピックに、出雲市出身の三木拓也さんが出場されました。三木さんは、5年前（高校3年生）に骨肉腫を発症され、当院で左膝の手術と化学療法、そして献身的な看護、リハビリ等を経て、次なるステップとして理学療法士になろうと思い大学に進まれました。高校時代は硬式テニス部の主将として活躍されていた経緯もあり、闘病中に「車椅子テニスをやってみたい」との夢を抱き、大学を休学し車椅子テニスに打ち込み、パラリンピック出場という快挙を成し遂げられました。

私どもは当院との関係上、何かしらの支援がしたいとの思いから「募金を」と考え、井川病院長のご裁可のもと、出雲キャンパスの職員の皆様にご支援をお願いいたしました。募金は予定をはるかに上回り、約115万円のご寄付を頂戴いたしました。早速、ロンドンへ出発される前のお母様にお渡しいたしましたところ「皆様のご好意に感謝いたします。拓也に皆様の気持ちを必ず伝えます。有難うございます」と感謝の意を述べられました。

三木さんのロンドンパラリンピックの結果は、シングルスは一回戦敗退もダブルスでベスト8の好成績を残されました。ファーストステージとして立派な成績であると思いますが、すでにセカンドステージとしてリオデジャネイロパラリンピックがもう視野に入っていると思います。今後、さらなる活躍が期待されます。

職員の皆様には趣意にご賛同いただき、ご協力承りましたことに心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

左から、大田MSW、竹谷講師、三木拓也さん、井川病院長、石崎理学療法士

遠隔地の患者さんに宿泊施設を提供しています

医療サービス課

入院患者さんの付き添いや治療後遠方へ帰るのがつらい・・・等の理由で、医学部会館を患者さん・ご家族の宿泊施設としてご利用いただくようになって5年が過ぎました。近い・安い・便利ということもありすぐ満室になり、しばしば丁重にお断りしていました。平成22年7月からは市内の「ニューウェルシテイ出雲」のご厚意により、割安料金で患者サービスに協力していただき、宿泊を希望される方には利用していただくことができるようになりました。あれから2年・・・。

この度、出雲市駅より徒歩5分の便利で静かな場所にある「HOTEL　ながた」にお願いしましたところ、快く提携宿泊施設になることを承諾してくださいました。「ニューウエルシテイ出雲」と同様に、割安料金で宿泊ができるようになりましたので、利用を希望される場合は、病院1階玄関隣の医療相談窓口へ来ていただき、「HOTEL　ながた」若しくは「ニューウェルシテイ出雲」の「宿泊願」の用紙を受け取ってください。この「宿泊願」をホテルの受付カウンターへ提出していただくことによって、特別顧客料金の適用を受けることができます。

医療サービス課では、患者さんやご家族のかたのご意見・ご要望に耳を傾け、全ての患者さんにとってあたたかい病院であるように、患者サービス部門でひたすら知恵を絞っていきたいと思います。

提携宿泊施設「ホテルながた」

中学生地域医療現場体験を実施しました

総務課　総務担当

7月30日（月）に出雲市近隣の中学生を対象に「地域医療現場体験」を実施しました。

この体験学習は、島根県の主催により実施する事業で、中学生が地域の医療現場での体験を通して、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を培うとともに、医師・看護師等の職業の重要性について理解を深め、地域医療従事者を目指す中学生の育成を図ることを目的とし附属病院で企画したものです。

当日は、出雲市内の4校に大田市内の2校を加えた6校の中学校から21名の参加があり、井川病院長が注意点などを説明し、新病棟のDVDを視聴した後、グループに分かれて次のプログラムを体験しました。

【プログラム内容】

・手術部見学
・放射線部見学
・内視鏡手術のトレーニング体験
・小児センター見学

体験学習終了後のアンケートでは、下記の感想が寄せられました。

・体験をしてみて興味がわいたので、医療という仕事もいいなと思った。
・手術しているところを実際に見て、色々な準備をしないといけない事や沢山の人が協力して頑張っている事を知ることができ、とても良い経験になった。
・内視鏡のシミュレーションでは“鉗子”の操作を難しいと感じたが、それを簡単に使いこなして手術をされるのを見てすごいと思った。
・放射線と聞くと悪いイメージしかなかったが、役立つものもある事がわかった。
・またこのような機会があったら是非参加したい。

手術部見学の様子

放射線部見学の様子

内視鏡手術のトレーニング体験

高校生手術部体験学習を実施しました

手術部　佐倉　伸一

8月2日（木）の午後、県内の高校生を対象に手術部体験学習を実施しました。この体験学習は、手術の現場を高校生が実際に体験することにより医療への関心を高めて、将来医師、看護師や薬剤師等の医療従事者を目指す人材を増やすことを目的に、毎年一回夏休み中に実施しているものです。

県内高校から併せて45名の参加があり、井川病院長が注意点などを説明した後、4グループに分かれて次のプログラムを体験し、医療実践に触れました。

【プログラム内容】

・実際に行われた手術の見学（術衣着替え、手洗いを行い手術室に入室）

・ 模型を使った縫合手技実習

・ バーチャルリアリティー手術シミュレーターを用いた内視鏡外科手術の擬似体験

・ 臨床工学技士業務の理解

手術室では消化器外科・婦人科・泌尿器科の開腹手術や腹腔鏡下手術を見学し、緊張気味ではありましたが術者や助手の先生の説明に熱心に耳を傾けている様子がみられました。手術見学以外は、これまで好評で続けて開催しておりました手術シミュレーターを用いた内視鏡外科手術体験はじめ、針糸模型を使った外科縫合実習など、実際に手を動かす実習が非常に好評でした。また、近年の手術室医療では欠かせない先端医療機器を管理している臨床工学技士の仕事についても説明を受け、簡単な医療機器を実際に触ってみました。学習終了後のアンケートでは「医学部に行きたいという気持ちが強くなった」、「医療に興味がわいた」など好意的な回答が大半を占め、今回の企画の目的を達成できたことが確認できました。

今回の体験実習では、外科系各科、内視鏡トレーニングセンター、MEセンター、総務課の方々の多大なるご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。また来年以降も実施する予定ですのでよろしくお願い申し上げます。

臨床工学技士業務見学

手術部見学

腹腔鏡手術シミュレーション

「夢実現進学チャレンジセミナー」医学実習を実施しました

総務課　総務担当

「夢実現進学チャレンジセミナー」（主催：島根県教育委員会）は、島根県内の高校2年生で医学部や法学部等の難関大学・学部に進学を希望する生徒が集い、医学実習や法教育プログラム等を体験して夢実現への意欲を高めることを目的とした事業で、8月6日（月）～9日（木）に開催されました。

このセミナー中の8月8日（水）、理系進学希望の参加生徒42名が本学医学部を訪れ、医学実習を行いました。

当日は朝から夜まで内容の濃いスケジュールでしたが、生徒はどの実習プログラムにも大変熱心に取り組んでいました。プログラム最後の懇談会では、医学への興味が深まった、医師への志望を強くした等の感想が聞かれたほか、アシスタントを務めた医学部学生から高校生へエールも送られ、活発な意見交換が行われました。

【プログラム内容】

・ 医学部長講義
・ 症例呈示　「脳卒中」（神経内科）、「腎臓がん」（泌尿器科）
・ 医療現場体験実習
　ＢＬＳ・蘇生実習、呼吸音の聴診、手術部見学、病理部見学、放射線部見学、リハビリ実習
・ 講義「医学の扉」（熊倉教授）
・ 医師・医学部学生との懇談会

ＢＬＳ･蘇生実習

呼吸音の聴診

手術部見学

懇談会

「継続は力なり」第４回納涼祭

大 会 長 小松 明夫　実行委員長　矢田 伸広

去る7月18日、第4回納涼祭が武志山荘で開催されました。今回も150名を超える皆様の参加を得て無事終えることができました。醵金等、ご協力をいただきました皆さまに本紙面をお借りしお礼申し上げます。

さて、納涼祭もマンネリ化の兆しが見え3回で終わりかとも思いましたが、蛇足のごとく第4回を企画、開催をしました。これは、その目的である職員のコミュニケーションを図ることの必要性が少しも失われていないからに他なりません。何か、別の行事が開催されれば別ですが、この気配もない今は蛇足でも何でも「継続が力なり」で、第5回へ繋げるためにも第4回が存在しないことには前に進まないとの想いでした。

その納涼祭はビアホールを借り切って、俗に言う「ノミニケーション」の場を提供するものですが、くじ引きで景品が当たる等の企画もあり結構楽しく過ごすことができます。今年もミッフィや花火を準備し、プレゼンターを井川病院長、秦副病院長に務めていただき大いに盛り上がりました。やはり景品が当たるって嬉しいですね。最近は、来場者にお子様連れが増えていて、当たりの狙いが外れた子供がその景品を当てた大人と物々交換の交渉する姿など、ひと味違うコミュニケーションの場でもありました。また、新人の皆様の参加も多く、当初から望んでいた私たちの目的も達成されつつあり、納涼祭定着の感もありました。

幸いにも今回の会場で、来年の第5回納涼祭を開催することが決まりました。継続を求めて第4回を開催した私たちにとってこれほど嬉しいことはありません。お骨折りいただいた皆様に心からお礼申し上げます。皆さん！！来年も参加してくださいね。

ボランティア活動について

ボランティアコンサート

7月19日　だんだんコンサート

8月6日　サマーコンサート

医療サービス課　患者サービス室

8月29日　荒木　八州雄ショー「笑顔は宝」

病院運営委員会の報告

平成24年7月18日

〇副診療科長を承認しました。

診療科名等	職名等	新	旧	発令日
放射線科	副診療科長	中村　恩	鶴崎　正勝	平成 24 年 9 月 1 日
放射線治療科	副診療科長	玉置　幸久	川口　篤哉	平成 24 年 7 月 1 日

平成24年9月19日

〇平成24年10月1日付で、特殊診療施設の救急部を廃止するるとともに、救命救急センターを開設することに伴う規則が承認された。

〇救命救急センター長、救命救急副センター長を承認しました。

施設名･役職名	所属･職	氏名	任期
救命救急センター センター長	救急医学講座 教授	橋口　尚幸	平成 24 年 10 月 1 日 ～平成 25 年 3 月 31 日
救命救急センター 副センター長	救急医学講座 准教授	山内　健嗣	平成 24 年 10 月 1 日 ～平成 25 年 3 月 31 日

研修会･講演会･学会等のお知らせ

名　称	日時	場　所	対象者	演題等	講師名	主催他
第2回[illegible]研修会	平成24年10月1日(月) 16:00～18:30	臨床講義棟 2階 臨床大講堂	[illegible]員	[illegible]	竹山 [illegible] [illegible]	[illegible]部
[illegible]会	平成24年10月2日(火) 18:30～20:00	基礎学科1階 N11 講義室	[illegible]員	「[illegible]の治療に行う看護師の[illegible]」－[illegible]となって－	岡山大学[illegible] 高木 [illegible]	[illegible]
臨床遺伝[illegible]セミナー	平成24年10月4日(木) 16:00～18:30	図書館1階 視聴覚室	医師、医療従事者、大学院生、学部生	「遺伝子検査の生命倫理」	熊本大学[illegible] 大学院 [illegible] 一郎	小児科
市民公開講座[illegible]と[illegible]第1回	平成24年10月6日(土) 13:00～14:30	臨床講義棟 2階 臨床大講堂	一般市民	「[illegible]による[illegible]予防－[illegible]データから」 「子どもの頃の[illegible]」	鳥取[illegible] [illegible] [illegible]	生涯学習[illegible]
第[illegible]回[illegible]中国[illegible] [illegible]－[illegible]の4[illegible]中[illegible]～	平成24年10月7日(日) 14:00～16:00	朱鷺会館(ときめき館) [illegible]フロー[illegible]ホール)	一般市民	レクチャー 「[illegible]を治し予防する」	出雲市[illegible]リハビリテーション[illegible] リハビリテーション科 [illegible] 岡山大学大学院 [illegible] [illegible]科学 [illegible] 阿部 [illegible]	内科学第二
[illegible]研究[illegible]	平成24年10月8日(水) 17:30～19:30	外来・中央診療棟2階 クリニカルスキルアップセンター内	[illegible]・[illegible]・学生・看護師・[illegible]・[illegible]・[illegible]	「[illegible]をテーマとした一[illegible]」	クリニカルスキルアップセンター職員	クリニカルスキルアップセンター
第[illegible]回[illegible]生化学セミナー	平成24年10月17日(水) 18:00～	基礎学科棟2階 セミナー室	医師、医療従事者、大学院生、学部生	「[illegible]によるGPCR不活性化の分子[illegible]」	T[illegible]大学[illegible]科 准教授 [illegible] 武士	病態生化学
市民公開講座 ～わかりやすい消化器病シリーズ 2012～	平成24年10月27日(土) 14:00～	パルメイト出雲 4 階パルメイトホール	一般市民	「癌はどこまで薬で治療できる？」	佐藤 [illegible]（光学診療部）	内科学第二
第3回患者さんと家族のための[illegible]リウマチ[illegible]会	平成24年10月28日(日) 10:30～11:30	基礎学科1階 N11 講義室	一般市民	「リウマチになったら注意すること、自分でできるリハビリについて」	島根大学リハビリテーション部 准教授 [illegible] 浩	整形外科
第[illegible]回[illegible]生化学セミナー	平成24年10月30日(火) 18:00～	基礎学科棟2階 セミナー室	医師、医療従事者、大学院生、学部生	カルシウム信号系のレドックス応答性とその[illegible]	昭和薬科大学[illegible] 教授 [illegible] [illegible]	病態生化学
平成24年度島根県委託事業 島根県がん看護実践に強い看護師育成研修	平成24年10月31日(水) 9:00～12:10	基礎学科棟1階 N12 講義室	医療従事者、学生、ケアマネジャー	がん患者と家族の[illegible]と治療	埼玉医科大学 [illegible]センター [illegible]科 教授 [illegible] [illegible]	[illegible]

名　称	日時	場　所	対象者	演題等	講師名	主催他
平成24年度島根県委託事業　島根県がん看護実践に強い看護師育成研修	平成24年11月2日(金) 13:30～16:40	外来･中央診療棟2階　クリニカルスキルアップセンター内	医療従事者、学生、保育士や学校の先生	大切な人ががんになった子どもへのケア	名古屋大学大学院医学系研究科 看護学専攻 特任講師　阿部　まゆみ	医学部附属病院
島根大学がん医療従事者研修会	平成24年11月2日(金) 18:30～20:00	臨床講義棟　2階 臨床大講堂	がん治療に関わる医療従事者	「食道がん診療－現況と問題点－」	国際医療福祉大学　化学療法研究所附属病院内視鏡部 教授　天野　祐二	内科学第二
市民公開講座 ～わかりやすい消化器病シリーズ 2012～	平成24年11月3日(土) 14:00～	パルメイト出雲 4 階パルメイトホール	一般市民	癌はどこまで薬で治療できる？	森山　一郎（腫瘍センター）	内科学第二
平成24年度市民公開講座	平成24年11月4日(日) 10:00～12:00	臨床講義棟　1階 臨床小講堂	一般市民	ママとベビイのお口の健康～マイナス1歳から始めよう～	石橋　浩晃（歯科医口腔外科） 辰巳　香澄（歯科口腔外科）、他	歯科口腔外科
島根大学がん医療従事者研修会	平成24年11月6日(火) 18:30～20:00	臨床講義棟　1階 臨床小講堂	がん治療に関わる医療従事者	地域緩和ケアモデルの構築－柏での経験を通じて－	国立がん研究センター東病院 緩和医療科　科長　木下　寛也	緩和ケアセンター
日本医学看護教育学会第15回学術セミナー	平成24年11月10日(土) 14:00～17:00	看護学科棟1階 N11 講義室	会員、一般、学生、他	教育講演「基礎教育から現任教育」～臨床看護師の育成とキャリア形成～ シンポジウム　テーマ：臨床における看護教育者を育てる」	神戸大学医学部附属病院　副病院長兼看護部長　松浦　正子 日本医科大学大学院　生体機能制御学　教授　南　史朗 国立病院機構　浜田医療センター教育専任看護師長　吉岡　教子　他	医学部附属病院
平成24年度第4回誰でも参加できる糖尿病教室	平成24年11月26日(金) 15:30-16:30	ラパン （病院2階食堂）	一般市民	自分の検査結果も見てみよう！ 糖尿病と季節って関係あるの？	石原　智子（検査部　検査技師） 岡山県立大学　認定看護師教育センター　倉橋　美輝　他	内科学第一
若手医師ステップアップ研修	平成24年12月1日(土) 13:30～	ニューウェルシティ出雲	学生、初期研修医、後期研修医、指導医	一部「本物は誰だ」―優先すべき情報・検査は？説明は？― ～内科救急・プライマリケア・ピットホール　研修医必携10番勝負～ 二部「コミュニケーション＆プレゼンテーション・スキルの向上」 ～指導医に追いつけ、追い越せ～	秋田大学　長谷川　仁志　先生 鬼形　和道（卒後臨床研修センター）	医学部
市民公開講座 ～わかりやすい消化器病シリーズ 2012～	平成24年12月23日(日) 14:00～	パルメイト出雲 4 階パルメイトホール	一般市民	酒やたばこを楽しむのむコツ	三宅　達也（肝臓内科）	内科学第二

特別室のご案内

快適な入院生活をすごしていただくために特別室はいかがですか？
病室は単に治療する場ではなく、生活を送る場でもあります。より日常に近い環境の中でお過ごしいただくために、特別室を用意しています。

◎特別室の利点

- プライバシーが保たれ、落ち着いて療養することができます。
- 面会者の方と、お部屋でゆっくりお話していただけます。
- テレビ・冷蔵庫は無料でご利用になれます。

◎個室料金：１日あたり室料（税込み）

特別室Ａ：	１２，６００円	特別室Ｂ：	８，４００円
特別室Ｂ(緩和ケア病棟)：	６，３００円	特別室Ｃ：	５，２５０円
特別室Ｄ（４床室）：	１，５７５円		

広々とした空間でご家族やご友人と大切な時間をお過ごしいただけます。

（基本設備）洗面台、トイレ、テレビ、電子冷蔵庫、クローゼット

特別室Ａ

（その他設備）キッチン、バス、応接セット、テーブル、椅子、（テレビインターネット対応）、冷凍冷蔵庫、インターネット※1

特別室Ｃ

（その他設備）テーブル、スツール、（テレビインターネット対応）、インターネット※1

特別室Ｂ

（その他設備）シャワー、ソファーベッド、（テレビインターネット対応）、インターネット※1

特別室Ｄ（４床室）

（その他設備）スツール、（テレビインターネット対応）

※1　インターネットをご使用の場合は接続用の2m以上のＬＡＮケーブルが必要となります。
各自ご準備願います。
なお、無線ＬＡＮは使えませんのでご注意ください。

島根大学医学部附属病院

働く、輝く、出雲で暮らす。

H25年春
病棟改修
完了

島根大学医学部附属病院

看護職員

看護師
助産師

大募集！

インターンシップ

島根大学医学部附属病院に来て、実際に見て・聞いて・感じる、看護体験をしてみませんか。
※プログラムや申込方法などの詳細は、看護部ホームページをご覧ください。

病院見学会・病院説明会《随時》

就職への不安軽減や疑問解消にお役立てください。保護者の方の同伴も可能です。
●お申し込み方法／直接、看護部へ電話（0853-23-2478）でお申し込みください。

国立大学法人
島根大学 医学部附属病院
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1 TEL.0853-23-2111（代表）
http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島根大学病院を入力してクリック！ 島根大学病院 検索